



公益財団法人 日本対がん協会 「日本対がん協会」と「対がん協会」は登録商標です
〒100-0006 東京都千代田区有楽町2-5-1 有楽町センタービル(マリオン)13F
☎(03) 5218-4771 <http://www.jcancer.jp/>

主な 内容	2面	がん教育レポート 豊島区立千川中学校
	3面	ピンクリボンインタビュー 河合雪之丞さん
	4面、5面	2016年度RFL]活動報告
	6面	ネクストリボンシンポジウム

多岐にわたるテーマで研究発表 厚生労働科学研究 「がん対策推進総合研究事業 研究成果発表会」を開催

2月1日、日本対がん協会の主催で、今年度の厚生労働科学研究「がん対策推進総合研究事業」の研究成果発表会(研究者向け)が、東京・中央区の国立がん研究センター国際研究交流会館で開催された。

これは厚労省が新たながん研究戦略に基づいて始めた、がん医療の実用化や政策課題の解決を図るための研究事業及び推進事業である平成28年

度厚生労働科学研究推進事業によるもので、すべてのがん患者とその家族の苦痛の軽減や療養生活の質の向上維持、がんになっても安心して暮らせる



全国から集まった研究者が成果を発表した

社会の構築などをめざしている。

同事業は平成26年度から始まり、3年目の今年度が最終年度となる。26年度、27年度、28年度に課題が採択された29課題について、それぞれの研究代表者がその成果を発表した。

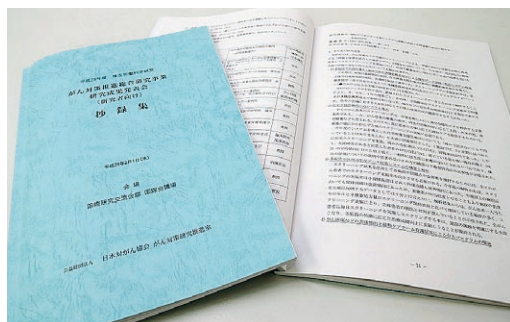
働くがん患者の職場復帰に関する研究や、がん患者が抱える精神的・社会的な問題に関する研究、若年性乳がん患者の妊孕性温存に関する研究、小児がんやAYA(思春期・若年成人)世

代のがんに関する研究など、近年社会的な注目度やニーズが高まっているテーマから、乳がん患者のサバイバーシップ向上に関する研究、がん対策事業や国の政策自体を評価・検証する研究、がん登録に関する研究などまで、内容は多岐にわたった。

各研究代表者のプレゼンテーションの後では、会場の中間・事後評価委員から研究内容や、今後

の展望について突っ込んだ質問も多く出て、真剣な質疑応答が行われた。閉会後の評価委員会で研究成果についての審査が行われた。

同事業の事務局運営を厚労省より日本対がん協会が請け負い、今回の研究者向けの成果発表会のほかにも、今年度はがん医療従事者向けのセミナーを9回、一般市民向けのセミナーを3回、研究者と共催した。研究課題一覧と発表内容の抄録は日本対がん協会HPに掲載している。



約120ページにおよぶ抄録集

がん相談ホットライン 祝日を除く毎日
03-3562-7830

日本対がん協会は、がんに関する不安、日々の生活での悩みなどの相談(無料、電話代は別)に、看護師や社会福祉士が電話で応じる「がん相談ホットライン」(☎03-3562-7830)を開設しています。祝日を除いて毎日午前10時から午後6時まで受け付けています。相談時間は1人20分まで。予約は不要です。

医師による面接・電話相談(要予約)
予約専用 03-3562-8015

日本対がん協会は、専門医による面接相談および電話相談(ともに無料)を受け付けています。いずれも予約制で、予約・問い合わせは月曜から金曜の午前10時から午後5時までに☎03-3562-8015へ。相談の時間は電話が1人20分、面接は1人30分(診療ではありません)。詳しくはホームページ(<http://www.jcancer.jp/>)をご覧ください。

がん教育レポート

豊島区立千川中学校で林和彦・東京女子医大教授が出張授業

日本対がん協会は1月14日、東京・豊島区の区立千川中学校でがん教育の出張授業を行った。

豊島区では地域の人たちも授業を見学できる「としま土曜公開授業」を実施している。その一環として同校は年に2回「課題別学習教室」を行っており、生徒たちが希望する授業を2種類選んで出席することができる。

当日行われたのは「租税教育」「国際理解教育」「新聞教育」「金融教育」「がん教育」「主権者教育」の6つの授業で、1年生と2年生が対象。日本対がん協会が協力した「がん教育」には、2回の授業合わせて74人が参加した。

講師は東京女子医科大がんセンター長の林和彦教授。現在は抗がん剤治療や緩和ケアを専門とし、日々患者やその家族と関わるなかで子どもたちへのがん教育の必要性を強く感じ、がん教育の取り組みを始めた。忙しい病院勤務を続けながら3年かけて教育学を学



集中して話を聞く生徒たち

び、今年ついに教員免許を取得した。冒頭はがんになった有名人を取り上げ、日本人の2人に1人ががんになるというデータを示し、がんはありふれた病気と説明。がんは「細胞のミスコピー」で起こること、早期発見・早期治療すればほとんどのがんが治ること、15歳までにタバコを吸ってしまうと将来、非喫煙者の30倍がんにかかりやすくなるというデータなどを説明すると、生徒たちは驚いたような表情を見せていた。

そして、がんを防ぐための新12か条を示しながら、「親や先生が『タバコ

を吸ってはダメ』とか、『食べものの好き嫌いはしちゃいけない』とか言うのは、かっこつけて偉そうにしているわけじゃないんだ。みんなの体を心配して、健康で元気でいてほしいと思っているからだよ」と丁寧に語りかけた。

後半には「がん患者さんにはどんなつらさや苦しみがあると思いますか?」「大切な人ががんになったらどうしますか?」という事前アンケートの回答を紹介しながら「みんな、中学生とは思えないくらいしっかりしていて本当に頼もしい。がんになってこれまで通りの生活ができなくなることは、本当につらい。がん患者さんたちは特別なことではなく、ごく普通のことを望んでいるんだ」と語りかけると、生徒たちは一層真剣な表情で話に聞き入っていた。

今回の授業には、教員や保護者なども多く参加し、がん教育への関心の高さがうかがわれた。

質問1

がん患者さんにはどんなつらさや苦しみがあると思いますか?

抗がん剤などの治療のつらさ	38人
死の恐怖	26人
痛みなどのからだのつらさ	23人
いつも通りの毎日が送れないつらさ	13人
家族と一緒にいけないこと、孤独な入院生活	13人
精神的負担	12人
転移や再発	8人
治らない恐怖	7人
家族への迷惑	7人

質問2

大好きな人ががんになったら、あなたはどうしますか?

毎日お見舞いに行く、会いに行く、そばにいる	27人
好きなことをさせる、してあげる	13人
出来るだけのことをする	12人
支える、励ます、応援する	8人
がんについて学ぶ、治療法を探す	8人
身の回りの世話をする	8人
話を聞いてあげる、話をする	7人
楽しませる、笑わせる	6人
何としてでも助ける	3人

人生をたくましく生き抜く大人になってほしい

東京女子医科大 林和彦教授

がん教育の授業をきっかけに、命について考えてほしいという林教授。

「日々、患者さんと接していると、家族以上に支えられる人はいないことを実感する。そして今、家族にがんを患う人がいることが多くなっていることもあり、子どもたちにはがんに関する正しい知識を学ぶことが必要」とがん教育の必要性を語った。

そして「中学生はもう守られる立場ではなく、家族や周りの人たちを守る立場になりつつある時期。自分の体は自分で守り、強い大人になって、家族や大切な人たちを守れるようになってほしい。どんな状況にな

ろうとも優しさを忘れずに、人生をたくましく生き抜くことができるように願って授業をしている。たった45分の授業でも、生活態度や行動が大きく変化した生徒もいた。子どもたちには、しっかり受け止める力があると感じている」と手ごたえを感じていた。

今後は、教育委員会や医師会などからの要請があれば、全国各地に出向き、積極的にがん教育の授業をしたいと抱負を語った。



ピンクリボンフェスティバル×松竹

初春新派公演「華岡青洲の妻」でピンクリボンの啓発活動 舞台上からも乳がん検診受診を呼びかけ

日本対がん協会は、東京・日本橋の三越劇場で上演された初春新派公演「華岡青洲の妻」で、松竹株式会社と共同でピンクリボンの啓発キャンペーンを行った。

世界で初めて全身麻酔による乳がん摘出手術に成功した江戸時代の医師華岡青洲と、麻酔薬の完成のために自ら実験台となって協力する妻と母の物語は、過去に何度となく舞台化されている有吉佐和子の傑作だ。とりわけ今年

は青洲役に昨年新派に入団して二代目を襲名した喜多村緑郎、妻の加恵役に本作が新派入団第一作となる市川春猿改め河合雪之丞とあって、華やかな話題満載の舞台だ。

1月2日から23日までの公演期間中は劇場に募金箱を設置し、第12回ピンクリボンデザイン大賞のグランプリ作品を使ったメッセージポスターを掲出したほか、9日には水谷八重子さん、波乃久里子さん、13日には喜多



募金箱にはお礼も

村緑郎さん、河合雪之丞さんが、それぞれ講演後のトークショーでも乳がん検診受診を呼びかけた。

ピンクリボンスペシャルインタビュー

女性の強さ描いた作品で早期発見の大事さを伝えたい 河合雪之丞さん



公演後の舞台上で 河合雪之丞さん

歌舞伎の人気女形として活躍していた市川春猿さんの新派への転身が、朝日新聞「ひと」欄でも紹介されるなど話題を呼んでいる。記念すべき新派入団後の初舞台で乳がんの啓発活動に取り組まれた市川春猿改め河合雪之丞さんにお話を伺った。

——今回、啓発キャンペーンに取り組まれたきっかけは

それはやっぱりお芝居っていうのは色々な人が見てくださるからです。特に新派は女性も沢山見てくださるし、中には乳がんで近い人をなくす悲しみを味わった人もいますでしょうし。以

前から、女子プロゴルファーの方たちとかがピンクリボンの啓発活動をされているのを見て、早期発見・早期治療が大事なのは知っていたんですけど、やっぱりこういうのは女性が言った方が響くかなあと考えていました。でも今回、華岡青洲という偉大な人を描く作品に出演することになったので、こういう機会なら、何か乳がん啓発のためのメッセージを発信できるのではと考えました。

——見ごたえのある作品でした

本当に骨太で隙のない作品なんです。でもやる方は大変です。どうしてもいいところが一つもない作品だから、一瞬たりとも芝居から離れられない。ちょっとでも何かに気を取られるとそこから崩れちゃうんです。内容にも色々な要素がぎっしり詰まっています。華岡家の家族の話だけど、一方では青洲の技術も名声も高まり、お金も集まるようになって、その一方では失明してしまった妻がいて。そんな世界観を表すのに昔の紀州弁が重要な役割を果たして、風情を出しているんですね。まあとにかく本当に難しいけど、やりがいのある役です。

——嫁姑のせめぎあいも含めて、女性のあらゆる面がみられるお芝居ですね

女は強いって話ですよ。これは。有吉先生という女性が書いた、先生なら

ではの女性像ですね。だって、加恵って人体実験の犠牲になって失明しても、最後まで一言も恨み事を言わないんですよ。自分のおかげで青洲が志を果たして、藩医にまで上り詰めた。それを本当に喜んでいるんです。

——医学が進歩するまでの医師の血のにじむような努力や業のような執念も感じました

そうですね。青洲が最後のセリフで「自分ができなくても、自分に続くものがきっと出てくる」と言っていますが、何世代にもわたる大勢のお医者さんたちの努力の連なりが医学を歩かせてきたんでしょね。だからこそやっぱり早期発見の大事さをお伝えしたいです。せっかく医学が進歩しても、発見が遅ければ治っても色々大変だそうだし。実は私の知り合いでも乳がんになった人が多いんです。大きく取っちゃうと治っても予後が悪いか、腕が上がらないとかいろんな話を聞いています。だから知り合いにはとにかく早く検診行きなさいって、みんなに言っているんですよ。



トークショーで検診呼びかけ

特集 リレー・フォー・ライフ・ジャパン

2016年度リレー・フォー・ライフ・ジャパン 活動報告

10周年迎え、決意も新たに49地区でリレー・イベントを開催

日本対がん協会RFLJマネージャー 中島盛荘

2016年度リレー・フォー・ライフ・ジャパン(RFLJ)は大きな事故もなく、各地のリレーイベントを無事に終了する事が出来ました。ひとえに活動を支えて下さった各地の実行委員会の皆様、参加者、関係者の皆様、そして応援していただいている皆様のお陰であり、改めて厚く御礼申し上げます。



RFLJ2016くまもと

次世代のRFLの活動の担い手として、他地区でも学生主体によるリレー活動の広がりが期待されます。

次は昨年10周年を迎えた芦屋。9月3日、4日にリレーイベントが開催されました。10年前に日本初のRFLに携わり現在は各地で活躍している実行委員が応援に駆け付け、リレーイベントに花を

2016年はRFLJにとって記念すべき年でした。それは日本でRFLが活動を開始して10周年を迎える年だったからです。そこで2016年4月16日には東京・築地の浜離宮朝日ホールに全国の実行委員会の代表が集結し、にぎやかにセレモニーを開催し祝福をしました。

また10周年記念ロゴマークを製作し、各実行委員会の協力も得て、HPや印刷物等に掲載していただきました。また、今回ブラザー工業(株)のご協賛として、10周年記念の布製のタスキが贈呈されました。各地の実行委員の方々が自筆で一言メッセージを記載した上で、地区から地区へと引き継がれ、一層繋がりを共有された事と思います。

今年度の新規活動地区としては、苫小牧(北海道)、甲府(山梨)、大津(滋賀)、美祿(山口)、高松(香川)の5地区が加わりました。中でも山梨県、山口県、香川県でのRFL活動は初めてで、RFLの空白県が3つも減りました。

今年度は49地区でリレーイベント

が開催され、全国で81,186名(内訳：サバイバー：4,663名、チーム数：1,587)のご参加がありました。各地でCelebrate(祝う)、Remember(しのぶ)、Fight Back(立ち向かう)のRFLの3つのテーマに沿ってその中で各地の特色を生かした、プログラムを構成し実施されました。

久しぶりの仲間との再会の喜び、一歩一歩歩く事の喜び、旅立った方への想い、会場に参加できなかった方への想い、明日への希望、生きる勇気…様々な想いを持って各地でドラマが繰り広げられました。

今年のトピックスをいくつかご紹介致します。

まずは新規活動地区のRFLJ滋賀医科大学。こちらは「学生による実行委員会」が結成され、日本初の「カレッジリレー」として注目を浴びました。実行委員長の西明博さんは前年からRFLに関する情報を収集し他地区のリレーイベントに参加した上で活動されました。学生が主体となった募金・啓発活動やリレーイベントの経験は、



全国のタスキが繋がった



RFLJ2016滋賀医科大学

添えてくれました。

そしてRFLJくまもと。ご存知のように4月14日及び16日に発生した大震災の影響で、5月に開催される予定だったリレーイベントの延期を余儀なくされました。

今年度の開催は難しいとの予想を覆し、10月15日、16日に開催されました。そこには実行委員長である吉川俊治さんの、被災してもリレーイベントを開催したいという強い想いと意志がありました。当日は全国各地の実行委員が参加して下さりRFLの繋がりの深さを感じられた事と思います。

新年度も新たな地区でRFLの活動が始動します。少しずつRFLの輪が広がっています。それは日本だけでなく世界で活動しているRFLの仲間との繋がりが出来るという事です。

RFLがもたらすもの…それは「HOPE(希望)」です。私共は引き続きがん征圧を目指し、そしてがんになっても安心できる社会づくりに更に貢献できるように邁進します。

引き続き皆様方のご支援、ご協力を賜ります様お願い申し上げます。

※リレー・フォー・ライフ(RFL)とは、アメリカで生まれた世界共通のチャリティー活動で、日本における活動をリレー・フォー・ライフ・ジャパン(RFLJ)と呼んでいます。

特集 リレー・フォー・ライフ・ジャパン

リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2016年 収支報告一覧

月	日	都道府県	地区	参加人数	チーム数	サイバーク	ご寄付総額	実行経費	ACS寄付	協会寄付	振込額	寄付率
1	5	14・15	和歌山 和歌山	1,800	40	200	2,507,834	1,236,283	75,235	1,196,316	1,271,551	50.7%
2	5	21・22	茨城 つくば	860	23	93	1,787,364	1,214,324	53,621	519,419	573,040	32.1%
3	5	21・22	京都 亀岡	1,000	8	30	2,010,661	1,445,352	60,320	504,989	565,309	28.1%
4	6	11・12	兵庫 神戸	1,500	49	68	2,477,101	1,863,449	74,313	539,339	613,652	24.8%
5	6	25・26	青森 八戸	2,100	34	82	2,196,673	1,405,550	65,900	725,223	791,123	36.0%
6	7	23・24	青森 青森	960	23	87	1,155,178	1,121,527	34,655	-1,004	33,651	2.9%
7	7	30・31	北海道 苫小牧	940	26	24	2,649,465	1,231,465	79,484	1,338,516	1,418,000	53.5%
8	7	30・31	山形 鶴岡	150	0	12	729,171	551,346	21,875	155,950	177,825	24.4%
9	8	27・28	北海道 室蘭	1,000	20	50	2,493,689	1,540,697	74,811	878,181	952,992	38.2%
10	9	2・3	山梨 甲府	520	15	220	1,232,977	664,074	36,989	531,914	568,903	46.1%
11	9	3・4	岩手 釜石	255	37	8	609,568	195,459	18,287	395,822	414,109	67.9%
12	9	3・4	東京 世田谷	10,000	53	95	4,738,418	1,193,561	142,153	3,402,704	3,544,857	74.8%
13	9	3・4	福井 福井	850	30	150	1,408,972	936,607	42,269	430,096	472,365	33.5%
14	9	3・4	兵庫 芦屋	2,200	50	220	4,513,533	2,758,655	135,406	1,619,472	1,754,878	38.9%
15	9	10・11	岩手 平泉	1,600	43	50	4,174,770	2,498,995	125,243	1,550,532	1,675,775	40.1%
16	9	10・11	福島 福島	3,000	41	250	5,024,406	2,455,694	150,732	2,417,980	2,568,712	51.1%
17	9	10・11	埼玉 さいたま	3,000	53	110	3,027,909	1,891,051	90,837	1,046,021	1,136,858	37.5%
18	9	10・11	長野 長野	3,500	34	100	4,428,129	1,763,155	132,844	2,532,130	2,664,974	60.2%
19	9	10・11	静岡 静岡	1,590	30	114	3,030,491	1,045,881	90,915	1,893,695	1,984,610	65.5%
20	9	10・11	福岡 福岡	1,262	39	88	1,948,981	1,201,803	58,469	688,709	747,178	38.3%
21	9	17・18	埼玉 川越	3,000	53	130	3,047,142	1,615,448	91,414	1,340,280	1,431,694	47.0%
22	9	17・18	長野 松本	1,100	27	80	2,140,370	1,925,248	64,211	150,911	215,122	10.1%
23	9	18・19	新潟 新潟	1,300	26	86	3,339,810	2,222,199	100,194	1,017,417	1,117,611	33.5%
24	9	18・19	広島 尾道	1,046	53	101	4,067,608	1,467,608	122,028	2,477,972	2,600,000	63.9%
25	9	24・25	宮城 仙台	592	14	172	1,274,870	819,458	38,246	417,166	455,412	35.7%
26	9	24・25	栃木 壬生	1,872	47	192	6,696,326	3,845,388	200,890	2,650,048	2,850,938	42.6%
27	9	24・25	愛知 岡崎	3,300	41	282	2,771,845	1,259,928	83,155	1,428,762	1,511,917	54.5%
28	9	24・25	大阪 貝塚	862	40	29	1,406,274	908,133	42,188	455,953	498,141	35.4%
29	9	24・25	佐賀 佐賀	2,000	40	134	2,406,204	1,736,789	72,186	597,229	669,415	27.8%
30	10	1・2	神奈川 横浜	500	19	19	1,158,746	328,287	34,762	795,697	830,459	71.7%
31	10	1・2	愛知 豊川	418	19	23	1,440,306	534,028	43,209	863,069	906,278	62.9%
32	10	1・2	奈良 大和郡山	1,050	45	88	1,024,657	840,397	30,740	153,520	184,260	18.0%
33	10	1・2	山口 美祢	300	15	55	935,162	762,693	28,055	144,414	172,469	18.4%
34	10	1・2	徳島 徳島	780	12	42	971,463	546,947	29,144	395,372	424,516	43.7%
35	10	1・2	愛媛 松山	2,602	43	123	5,304,443	3,357,632	159,133	1,787,678	1,946,811	36.7%
36	10	8・9	群馬 前橋	7,300	72	171	6,003,041	3,844,297	180,091	1,978,653	2,158,744	36.0%
37	10	8・9	千葉 千葉	1,000	23	75	1,671,503	1,466,538	50,145	154,820	204,965	12.3%
38	10	8・9	岐阜 岐阜	450	21	46	1,173,172	190,102	35,195	947,875	983,070	83.8%
39	10	8・9	滋賀 大津	800	11	59	2,496,615	1,026,930	74,898	1,394,787	1,469,685	58.9%
40	10	8・9	徳島 小松島	393	19	40	610,866	105,222	18,326	487,318	505,644	82.8%
41	10	8・9	高知 高知	2,000	41	50	3,176,280	2,397,174	95,288	683,818	779,106	24.5%
42	10	8・9	大分 大分	4,061	54	150	4,491,573	812,609	134,747	3,544,217	3,678,964	81.9%
43	10	8・9	宮崎 延岡	756	33	32	2,924,866	2,091,434	87,746	745,686	833,432	28.5%
44	10	9・10	大阪 大阪	800	37	46	1,222,937	222,937	36,688	963,312	1,000,000	81.8%
45	10	15・16	熊本 熊本	980	39	104	1,760,503	939,175	52,815	768,513	821,328	46.7%
46	10	29・30	香川 高松	1,117	21	62	4,082,558	2,511,618	122,477	1,448,463	1,570,940	38.5%
47	11	5・6	静岡 長泉	500	14	51	1,222,730	564,033	36,682	622,015	658,697	53.9%
48	11	12・13	神奈川 新横浜	1,500	44	90	1,646,572	645,702	49,397	951,473	1,000,870	60.8%
49	11	12・13	沖縄 浦添	720	16	80	1,886,499	1,106,684	56,595	723,220	779,815	41.3%
2016年 合計 (49会場)				81,186	1,587	4,663	124,500,231	68,309,566	3,735,007	52,455,658	56,190,665	45.1%

*ACS 寄付=アメリカ対がん協会に対するロイヤルティ

寄付金は日本対がん協会を通じて、がん医療の発展のための「プロジェクト未来」「若手医師育成奨学金」や患者支援の「がん相談」や「検診推進」に役立てられます。一部はRFLJの運営資金に充てられます。

～がんになっても働きつづけるために～

ネクストリボンシンポジウム開催 企業関係者中心に高い関心

東京・中央区の浜離宮朝日ホールで1月15日、ネクストリボンシンポジウムが開催された(主催:朝日新聞社、後援:日本対がん協会ほか)。ネクストリボンとは朝日新聞社が昨年立ち上げた「がんとの共生社会づくり」を目指すプロジェクトで、がんが治るようになってきた現在ならではの課題である、がん患者・経験者が働き続けることのできる社会づくりを目指している。今回のシンポジウムはそのキックオフと位置づけ、患者が働き続けることをテーマに、企業のダイバーシティ推進の視点も取り入れてディスカッションした。

次期がん対策推進基本計画で「就労支援」が重点施策として盛り込まれることもあり、企業関係者を中心に定員いっぱいの400名以上が詰めかけ、熱心に聞き入っていた。

高橋都国立がん研究センターがんサイバークシブ支援部長が基調講演を行った。高橋部長はがん患者の就労をテーマに患者や受入先企業、医師などへの聞き取り調査や研究を長く行い、厚労省の研究班活動の研究代表者として患者向けQ&A集を作成したり、「企



業のためのがん就労支援マニュアル」を出版している。それらの聞き取り調査などからがん患者と就労についての現状や企業側の本音や課題などを紹介、がんに罹患した社員をうまく職場復帰させるには「あわてない、決めつけない、しっかり聞く、調整する、ルール作り」が大切などと話した。相談しやすい環境づくりや、がんにかかった早い段階から、どんな支援制度があるかなどの情報提供が大事だと強調した。

医師が書くことになる意見書についても触れ、医療側と会社側はそもそもよって立つ論理が違うので、産業医や産業看護師との連携が重要と話した。

パネルディスカッションは2部に分けて開催。患者団体代表の天野慎介氏や、元ゴールドマン・サックス社員で患者支援組織NPO法人5 years代表

の大久保淳一氏、クレディセゾン取締役で乳がん経験者の武田雅子氏、タレントの麻木久仁子氏、愛知県がんセンター中央病院副院長の岩田広治氏と、日本対がん協会の関原健夫常務理事が、それぞれ自らの体験も踏まえて、がんになっても働き続けるためにはどうしたらよいか、企業の立場、働く人の立場、医療者の立場から話し合った。

「制度も大事だが、今ある制度の運用でできることも多い」「がんになったけれど、今は元気になった人の情報が少ない」「働く側も企業も努力が必要」「多様な働き方でも患者がパフォーマンスを維持できるように、ミニミニロールモデルを積み上げることが大事」など、さまざまな意見が出た。

1部と2部の間では、中川恵一東京大学医学部附属病院准教授が「企業ががん対策は経営課題」と題して講演を行い、がん患者の3割が働く世代で、定年延長と女性の職場進出から今後ますますがん対策は企業の大きな経営課題となることを説明し、がんになっても働き続けるためには「職場環境・がん検診・がん教育」の3つが大切と強調した。

兵庫県で教員向けのがん教育研修会

佐瀬・順天堂大教授、西森・岡山大助教が講演



満席の会場

兵庫県教育委員会と文部科学省は12月2日、教員や県内自治体の教育委員会の担当者らを対象にした「がんの教育に関する研修会」を神戸市内の

県民会館で開催した。佐瀬一洋・順天堂大学大学院教授と、岡山県内で数多くのがん教育出張授業を実施している西森久和・岡山大学病院血液・腫瘍内科助教の2人が講演した。

研修会には定員一杯の約190人が参加し、学校現場の関心の高さを伺わせた。

佐瀬教授は、教員ががん教育に取り組むにあたって、「様々な困難に直面したときにどうするのかを考える題材の一つとして『がん』を取り上げてほしい」と語った。さらに「がんに関する知識がないと圧倒されることなく、先生

方が日ごろから大切にされている命の大切さと思いやりという普遍的なものを、がん教育の中心に考えてもらいたい」と訴えた。

西森助教は、「自分や家族ががんになった時にどうしたらいいか、自ら切り開くための知識を正しく得ることができる」とがん教育の意義を強調。さらに、これまでの実践から、教員ががん教育を行う上での注意点を指摘。たばこががんの関係にふれるときは「『たばこがやめられない人が悪い』ではなく『たばこが悪い』と伝えてほしい」と話した。

Topics

今年度は滋賀県と神奈川県で開催 「2016年度 全国巡回がんセミナー」

日本対がん協会は、がんへの正しい理解と早期発見の大切さを伝える「2016年度全国巡回がんセミナー」を滋賀県と神奈川県で開催した。

両会場ともに日本対がん協会の垣添忠生会長が「わが国のがん対策に占める検診の重要性」と題し、基調講演を行った。

【しが会場】2016年11月29日(野洲市・野洲文化小劇場)

講演1「子宮頸がん検診のすすめ」滋賀県産科婦人科医会 会長 高橋健太郎氏

講演2「伝えたい!いのちの大切さとがん検診の重要性~乳がん患者として~」

滋賀県がん患者団体連絡協議会 会長 菊井津多子氏

主催:日本対がん協会、滋賀県健康づくり財団、参加者約180人

【かながわ会場】2016年12月17日(横浜市・神奈川県総合医療会館 講堂)

特別講演「胃ガンになって」ザ・ワイルドワンズ 鳥塚しげき氏

主催:日本対がん協会、かながわ健康財団がん対策推進本部、共催:神奈川県、参加者約120人

Report

かながわ会場「がんになっても、元気にやりたいことをしよう」 ザ・ワイルドワンズ 鳥塚しげきさん

1966年に「ザ・ワイルドワンズ」のメンバーとしてデビューし、「思い出の渚」などのヒット曲で知られるミュージシャンの鳥塚さんは、2002年、胃がんのため胃の4分の3を摘出。術後は体重が激減したが、歌いたいという強い思いで体力作りに励み、術後2ヶ月で復帰を果たした。

鳥塚さんは、自身ががんだとわかったときから退院するまでのエピソードを、ユーモアを交えながら語った。

「50歳を機に健康のために定期的に健康診断を受けるようになった。腫瘍マーカーの値に異常があって精密検査をしたら初期の胃がんだとわかった。自分が胃がんになるまで、がんに関する知識もなく、検診も受けたことがなかった。父は胃がんで亡くなっており、兄も胃がんで手術をしているが、二人とも定期的な検診は受けていなかった。ぜひ定期的に検診を受けて、早期発見につなげてほしい。そして、がん



歌が支えになったと語る鳥塚さん

になっても早期に治療して、元気に自分がやりたいことをしましょ」と思いを語り、最後に「思い出の渚」を熱唱して会場を盛り上げた。

学生対象 第5回がん征圧ポスターデザインコンテスト 作品募集中

日本対がん協会では、高校生以上の学生を対象に「がん征圧ポスター」のデザインを募集しています。若い世代の新鮮な感性とアイデアでがんの早期発見、早期治療を呼びかけ、デザインの手でがんを苦しむ人を一人でも減らしてください。

最優秀賞の作品はポスターにして全国の自治体や保健所、医療・検診機関などに約5万枚掲示し、副賞として10万円を贈呈します。また、優秀賞には賞金1万円を贈呈します。ぜひご応募ください。

- エントリー及び作品募集期間 2017年2月1日～3月31日(消印有効)
- 作品テーマ 「がん検診に行こう」
- 応募資格 高校生・大学生・大学院生・短大生・専門学校生
グループ応募も可(ただしメンバー全員が応募資格を有していること)
- 贈賞 最優秀賞1点:ポスター化し、約5万枚掲示します。副賞 賞金10万円
優秀賞3点:副賞 賞金1万円
- 主催 公益財団法人日本対がん協会
- 応募方法 コンテスト公式サイトでエントリーのうえ、ご応募ください。
- 公式サイト <http://www.jcsposter.com>

お問い合わせ:日本対がん協会(Tel:03-5218-4771)広報担当 岩井



第4回の最優秀賞作品

グループ支部対象 2017年度がん征圧スローガンも募集中!

日本対がん協会はグループ支部を対象に、今年もがん征圧スローガンの募集を開始しました。同スローガンは昭和35年(1960年)より策定を開始したもので、最優秀作品は2017年度のがん征圧スローガンとして様々な啓発活動に活用します。奮ってご応募ください。

- 応募 各支部5作品まで スローガンと作者名、所属、連絡先をご記入下さい(書式自由)。
- 宛先 日本対がん協会広報(担当 岩井) FAX 03-5222-6700
- 締切 2017年2月24日(金)必着 最優秀賞:1作品 優秀賞:3作品
2016年度最優秀賞作品
「大切な あなたと一緒に がん検診」(鳥取県支部 三上慶子さん)

映像の力で日本対がん協会を知ってもらいたい 各地でロケを敢行 さまざまな活動を紹介するプロモーションムービーが完成

日本対がん協会は、検診推進と啓発活動、ピンクリボンフェスティバル、リレーフォーライフ、がん教育、がん相談などさまざまな活動を行っている。多岐にわたる活動を映像でわかりやすく紹介し、もっと大勢の人たちに協会のことを知ってもらいたい、ということで昨年9月から多くの関係者の協力を得て順次撮影を行ない、約3分半のプロモーション映像が完成した。制作は武蔵野美術大出身の映像制作ユニット、ノックフックが担当し、がん征圧活動の現場で輝く沢山の笑顔や真摯な姿が収められている。

今後は、日本対がん協会のホームページで公開するほか、イベント会場やセミナー会場などでも活用し、対がん協会の活動についてより多くの理解を促していく予定だ。

Making of the promotional movie

9月17日

RFLJ川越



台風が多く不安定な天気が続いていたが、撮影当日はなんとか晴れた。会場には城西大学をはじめ、地元の大学生たちがブースを設けていて、芝生の緑のように明るく若々しい雰囲気。夜のセレモニー、エンブティテーブルの上には、雲の切れ間から大きな月が見えて幻想的だった。

9月27日

東京都東大和市立第五中学校



東京大学医学部の中川恵一准教授が、自身が監修した映像教材「よくわかる！がんの授業」を初公開しての出張授業。生徒たちからいきいきとした

反応があり、中川准教授も手ごたえを感じていた様子だった。

10月1日

ピンクリボンフェスティバル
スマイルウオーク東京大会



撮影隊は地下鉄やタクシーを使って東京の街を分刻みで移動し、表参道から日本橋までウオーク参加者の姿を追いかけた。当日の空は灰色の重い雲に覆われたが、幸い雨に降られることなく無事に撮影を終えることができた。

10月4日

がん相談ホットライン・
垣添会長インタビュー



普段は見られない「がん相談ホットライン」の相談中の様子を撮影。相談者の声や言葉のひとつひとつに耳を傾ける相談員の姿が印象的だった。

その後、垣添会長のインタビュー。大量の本に囲まれて、昼食代わりにクッキーを食べながら次々に書類に目を通す精力的な執務の様子まで撮影していると「もう十分撮れたでしょう？」とさすがに苦笑い。

10月13日、14日

宮城県対がん協会



まぶしいほどの青空の下、広い駐車場にずらりと並んだ検診車の姿は圧巻だった。検診車内の胃がん検診風景の撮影では、丁寧かつ手際の良い見事な仕事ぶりに、撮影隊もただただ感服。

震災で大きな被害のあった名取市の閑上大橋を中心としたロケや、車載カメラでの撮影も行った。復興が進んできたとはいえ、工事車両の行き交うがらんとした光景に、改めて震災の被害の大きさを感じた。